

第3回 夏こそ！雪プロセミナー 「みんなで始よう！雪の実践」

夏なのに雪の学習？などど考えがちですが，夏だからこそ雪の学習なんです。

雪プロジェクト（以下 雪プロ）の夏セミナーも今年で，第3回を迎えました。

今回のテーマは「みんなで始めよう！雪の実践」です。ワークショップやパネルディスカッションなどを通して雪の実践についてみんなで考える一日でした。

日 時 2007年7月27日(金) 10:00～17:00

場 所 札幌エルプラザ2F

主 催 北海道雪プロジェクト

北海道教育大学教育実践総合センター

後 援 北海道教育委員会

札幌市教育委員会

開 会

道内各地域からの先生方，企業，スタッフ含め60名以上参加者が集い，にぎやかにセミナーが開催されました。

セミナーを主催します雪プロ 事務局長 小笠原啓之教諭がセミナーの趣旨説明を行いました。

雪たんけん館 Web の説明

雪プロ代表 高橋庸哉北海道教育大学教授から「雪たんけん館 Web」の活用について説明がありました。

「雪たんけん館」の成り立ちから，大幅アップしたたんけん館の Web の歩き方について話がありました。今回，コンテンツが増えました，雪たんけん館活用の幅が広がりそうです。



説明する高橋代表

雪たんけん館を活用した授業提案

事務局長 小笠原教諭と割石教諭から雪たんけん館を利用した実践授業の提案がありました。雪に関する豊富な知識の詰まったたんけん館で、調べ学習を行う授業やクイズで学習する授業などの実践を楽しく紹介していました。



サプライズゲスト・村山元北海道教育大学学長



「みなさん一緒に考えましょう。」
クイズで紹介

冬・雪の教材ワークショップとグループ発表

ワークショップは 英語活動、 除雪、 冬の生き物、 雪エネルギー、 冬の遊び、そして 冬の暮らしの6テーマに分かれて模擬授業を考え、発表し合いました。

英語活動

「Let's Try」の模擬授業。

対象学年～ 小学校中・高学年（初年度学習）

ねらい～英語に親しむ

場面～「Let's～!」「O.K!」の導入

雪たんけん館のクリスとタルの会話を繰り返し聞きながら、どんな内容を話しているかをみんなで考えながら学習を進める場面です。先生役も子ども役も楽しくEnglishを学習していました。



除雪

10年後の除雪を考えた授業計画

教科～5年生 社会科

ねらい～除雪のことを考えることができる子を育てる。

子どもたちが変わることで大人を動かすことが出来ると考えた授業を計画していました。また、学習を通して、自分たちにも地域に対して何か出来ることがないか



を考える子どもに育ってほしいという願いが込められた発表でした。

冬の動物

冬の生き物の様子を調べる学習を計画。

教科～ 4年理科・総合的な学習

学習の流れ

雪の上に残っているもの調べをする。(足跡, 何かの跡, など)

発見した足跡などを雪たんけん館で調べる。

発見した動物の足跡から, 動物たちの暮らしや生態などを考えたり, 調べたりする。

足跡から始まり, 調べたり, いろいろな体験を通して動物の生活様式・形態まで発展するので, 幅広い学習になりそうです。



雪エネルギー

雪エネルギーのサイト作り。雪は何かに使えないかの素材探し。

雪を使った冷房や貯蔵

雪で発電

雪が積もって, 断熱材代わり

打ち水ならぬ打ち氷 などなど

雪エネルギーの素材探しの他に, 雪山の写真から子ども達に身の回りのエネルギーとして何かに使えないか考えさせる授業提案もありました。

雪エネルギーは, 環境教育を進める上でも重要な学習になりそうです。

冬の暮らし

コンテンツ提案

服装に関するカードを用意する。



服装カードを使って季節にあった服の着方を考える。

服装の組み合わせについて話し合うことで、季節や場にあった服装は何かを考えることができる。また、自分たちの服装は、適しているか生活の様子をふり返ることができる。

一番身近なことから、暮らしの工夫を考えるので、子ども達にとって大変考えやすく実践しやすい内容になっていました。



冬の遊び

雪遊びについての子どもたちに考えさせる授業を計画

ねらい～遊びから、競技になったり、いろいろなものに発展することを知る。



学習の流れ

グラウンドのスケートリンク作りを遊びながら行うには？

・ドラム缶をころがしながら

- ・アイスクリームを作りながら
- ・圧雪おに～タッチされたら足踏みをする。
- ・人型おに～タッチされたらたおれる。

遊びから、競技になったもの（スノーホッケー、ブルームボールなど）を紹介。

川で遊んだ子は、川を。海で遊んだ子は海を大切に。雪で遊んだ子も同じ。遊びを考えることは、町おこしのことも視野において!!

遊びが競技まで、さらに町おこしまで発展するという壮大な計画で、相当広がりのある学習になりそうでした。



ワークショップの講評

ワークショップの講評を岩手県 佐藤正寿教諭・メディア教育開発センター堀田准教授から頂きました。

佐藤正寿教諭

6つのグループが短時間で模擬授業まで考えてあるのがすごい。

1, 冬の暮らし

- ・コンテンツ提案～着せ替え人形ゲーム

- ・ゲームは手段。考えさせる仕掛けが必要（発問と理由）

2 , 雪エネルギー

- ・雪エネルギーに関わるアイデア～ひとつ一つがテーマになる
- ・困難な点も考えさせることも大切。
- ・困難の中にも活用とするのはなぜか考えさせることも大切

3 , 英語活動

- ・英語に親しむ。しんみりしないように IT を上手に活用
- ・変化のある繰り返し, 雪の遊びまでやってみたいと思う

4 , 冬の生き物

- ・雪たんけん館の特長である Web 百貨店的な上手な活用がされていた。
- ・もう一度探るのが更に学習を深める

5 , 冬の遊び

- ・実態からスタートするのがとてもよい。
- ・その学級に応じたルールを作り, 学級づくりを考えていきたい。

6 , 除雪

- ・札幌の除雪のすばらしさが出ていた
- ・子どもたちが目的意識を持った提案が出来るようにまとめさせたい授業であった。
- ・一見矛盾している事象からその中にある事情を考えさせる。

堀田龍也准教授

見方を変えると, いろいろな学習の仕方が見えてくる。

米の学習を考えると米の体験を, そこで終わらせない。様々な分野とリンクしている。

米を雪に置き換えるとどう変わるか。

雪の学習で環境・英語・公共の学習に関わって自分たちがどこをねらって考え, 授業を計画していたのか。

北海道における「雪」の学習

- ・リアルで生活体験的な学習
- ・地域のよさや独特の苦労を知ることが出来る



- ・行政や公共を知る学習
- ・自然のすばらしさを知る学習（結晶）
- ・社会調査や科学探究，英語コミュニケーション

全てをクリアする必要はない。全部の学習を通して，全てができるとよい。

冬・雪の教材開発ノウハウ 佐藤正寿教諭

1，雪と教材開発

子どもを鍛える＝教材開発と思っている。

授業を十倍楽しくするために（有田和正著「ネタ開発ノウハウ」より）

教師が教材をとれだけ自分のものにできるか 素材研究

教材を子どもの興味関心や発達段階にどれだけマッチしたものにできるか

教材の追求のさせ方がどれだけユニークか

雪に関する言葉の数だけ素材はある。雪の分野は多種多様である。

その中で何を教材研究にするか。

その視点は教師が面白いと思ったもの

「得意分野」をかけるとオリジナリティがでる。（分野・方法）

社会科が得意なら，雪と社会科で何かないかを探し，組み立てるとよい。

2，模擬授業

「雪と人々の暮らし（交通編）」（5年・社会科）

学習の流れ

- ・天気記号を考える。これは何でしょうか？～晴れ，曇り，雨，雪，みぞれ
- ・霰と雹の違いはなにか～予想してみましよう。漢字からも考えてみましよう。
- ・最後の記号です。何でしょう。 地吹雪です。
- ・地吹雪がある地域の人々の願いは？
- ・道路で地吹雪があるところ，安心安全な暮らしが出来る工夫は？

模擬授業について

導入で雪に関わる知識を身につけさせる，興味を持たせる

地吹雪の大変さと対策の工夫を理解させる

自然の脅威に対するスタンスを考えさせる。

- ・ は授業では行いますが， まで深く考えさせることが重要。

3 , How to 教材開発

いつでもどこでも教材開発

学区・地域はおもしろネタの宝庫

きっかけとしてのインターネット

デジカメと自転車

旅行は新たなチャンス

アンテナは広く

担当以外のネタも温めておく

～今担当している学年以外の教材をいかにストックしておくかで自分自身が

何年か後に担任したときに活用できる。

失敗例～教師は深い知識はあるが，子どもの実態と意欲に合致しないとき。



シンポジウム

「雪の学びを世界の子どもたちへ」～北海道から発信しよう～

パネルディスカッションで，これからの雪たんけん館について提言していただきました。

雪プロ顧問 新保元康教頭(新光小)から雪プロがなぜ立ち上がったのか，その立ち上げ当初の様子について，熱く熱く語っていただきました。

佐藤正寿教諭からは，

雪たんけん館の役割～ 教材のデータベース

素材研究に役立つ情報の提供



授業作りのノウハウ

学習活動を学力との関わりの解説

の提案がありました。

再度、新保教頭からは、「知らないことは教えられない！だから教えないはダメ！雪たんけん館では、たくさんの方がいる。だから、雪たんけん館を活用してほしい。」という熱い思いのお話がありました。

また、授業イメージがわかることから授業実践が広がってくる。出前ワークショップや飛び込み授業などを雪プロでは、行っているのでドンドン活用してほしい話もありました。

これから、雪プロの今後は何をすべきかについて、堀田准教授から提案があり、子ども用の学習テキスト（教科書のように使える）の作成をしてほしい。体験だけで終わらせるだけでなく、その後の振り返りや調べ学習に生かすためにもテキストが必要である。情報テキストのようなテキストを作成し、北海道の学校で雪の学習を行うとみんなの意識が変わってくる。だからこそ、みんなで学習できるような工夫が必要というお話がありました。

最後はやはり、新保教頭!!

「知らないことは、教えられない！」「知らなければ変わらない」「変わらなければ生きていけない」雪プロはいわば、「実験広場」当面の課題はもっと社会的なうねりに、現場へはテキストを、そして、雪プロに参画をしてほしい。

「教師のあこがれに子どもはあこがれる」

この思いで、是非、参画を!!という熱い熱い熱い言葉でまとめました。

「北海道教師に期待する」

最後は堀田准教授から「北海道の教師に期待する」という題で、講演を頂きました。

雪たんけん館は、教育（授業）で使える Web。

雪たんけん館を使うと言うことは、「雪」+「ICT活用」となる。

「雪」については、すでに、学習し尽くしているので、今日は「ICT活用」について説明する。

ICTはよりわかりやすい授業のために教師が使う。

(活用例)フラッシュ型教材

何回も繰り返すことが大切にも関わらず、教える時間が十分でない内容に効果的である

フラッシュ型教材による授業の効果

同じ題材でも、発問を変えることで、難易度や活用の幅が広がる

フラッシュ型教材は、主に知識・技能を育てたい時に有効。

一方、思考力を育てたいなら、1枚の写真をじっくりと見せて読み取らせる。

つまり、育てたい力によって、ICTの活用法が変わってくる。

北海道において、「雪」のことを子どもたちに教えることは大きな価値がある。

市民教育として大切なことである。

今後、「雪テキスト」を作っていくなどして、さらに実践しやすくしてほしい。

もちろん、テキストができてても一律に同じに教えるわけではないのだから、

ICT活用しやすいように、雪たんけん館のWebサイトの充実も大切である。

がんばっていきましょう。

堀田准教授のお話は、具体的で、参加者にその思いがひしひしと伝わります。いつも新しい視点から雪ブ
ロの意義を説いていただき、今後のあり方を示唆してくれる講演でした。

開 会

雪プロ代表 高橋庸哉北海道教育大学教授から閉会の言葉と雪の観察の説明がありました。暑い夏に雪
の学習の一日が終了しました。